

万人のための教育（EFA）への挑戦：日本のODAは何ができるか¹

小川啓一（神戸大学大学院国際協力研究科助教授）

江連 誠（神戸大学大学院国際協力研究科博士課程後期在籍）

武 寛子（神戸大学大学院国際協力研究科博士課程前期在籍）

1．研究目的・内容およびその妥当性

1.1. 研究目的

1990年のタイのジョムティエンにおける「万人のための教育世界会議(WEFA)」以降、途上国に対する教育援助は、基礎教育の開発を促進する人権的なアプローチから経済開発的アプローチさらには、貧困削減のための重要な手段とされてきた。また、WEFAにおける『万人のための教育世界宣言』では、2000年という期限を定めていたため、「EFA2000評価」が、各国、各地域でなされ、ダカールにおける世界教育フォーラムにおいて、最終総括と新しい『ダカール行動のための枠組み』にまとめられた。「多くの国でかなりの進展がみられた」としながらも2000年の時点で、多くの子供が初等教育へのアクセスを欠いており、非識字者の存在、ジェンダーによる差別、ニーズにもとづいていない学習の質の悪さが問題とされた。結局、今度こそ後延ばしにしないとの決意のもと、2015年までに、すべての子供たちが初等教育へのアクセスだけでなく、修了することも含めて、初等教育の完全普及を宣言した。他の重要な目標は、2015年までの教育におけるジェンダー平等の達成だが、より緊急課題として、2005年までの初等・中等教育での男女格差の解消が、宣言されている。

国際社会において、このように基礎教普及に対しての関心が深まり、わが国のODAでも基礎教育支援を強調（大綱でMDGs支持）するなか、BEGINを通して基礎教育普及への支援に具体的に動きはじめた。国際協力機構内に人間開発部という新しい部署が設立されたのも教育援助の重要性を理解しMDGsを強く支援しようとする表れであろう。

¹ この研究は国際協力機構(JICA)客員研究によるものである。国際協力機構にはこの研究を可能なものにしていただき感謝の意を表す。研究計画書を国際協力機構に提出させていただいた際のタイトルは「万人のための教育（EFA）への挑戦：日本のODAに対する提言（仮）」である。また、研究の初期段階であるので今回のセミナーにあたり題名を多少かえてある。

上記の国内外の教育開発の動向をふまえて、本研究の目的は主に下記の四つに分かれる。第一は、2000年のダカール会議以降の各国際機関、二国間援助機関、途上国政府の取り組みをレビューし、現在までのその到達点と問題点を明らかにすることである。EFA:FTIの最近の動向もここで深く分析する。第二は、日本のODAによるEFA(万人のための教育)の取り組みをBEGINの前と後に注目し、国内の教育援助に携わる研究者と実務者のEFAに対する考え方をまとめることにある。第三は、第一と第二の分析結果をふまえて、開発途上国に見るEFAと日本の教育援助の取り組みについて四つの事例国に焦点をおき深く現地レベルでの日本の教育援助についてドナー間の援助協調を踏まえ分析する。そして、最終章では、この研究結果のまとめとして、本研究の一番の目的である日本のEFA推進への提言をおこなう。

1.2. 研究内容

1. EFAの歴史的背景についてジヨムティエン会議からEFA:FTI(ファスト・トラック・イニシアチブ)への発展をダカール会議や国際機関の動きなどを含めてレビューする。
2. 国際的動向と照らし合わせて日本のODAによるEFAの取り組みを歴史的に分析し、また、国内外の教育援助研究者、実務者へのインタビューを含めながら日本のEFAに対する考え方をまとめる。
3. いくつかの代表的な途上国におけるEFA達成にむけた取り組みのケーススタディを行い、現地からの視点で日本の教育援助をEFAと結びつけて分析する。
4. これまで日本のODAが支援してきた分野を中心に、日本のEFA推進におけるさらなる支援に対する提言をする。ここでは、日本の比較優位やアフリカ支援などについても触れることにする。

1.3. 妥当性

日本のODA事業のなかでも、ODA大綱でMDGs支援を第一に挙げていることから教育開発支援、とくに基礎教育開発への援助は、最も重要な分野の一つである。世界レベルでのEFAに関する動きと各途上国のEFAの進み具合をきちんと把握しておくことは、今後の日本の教育援助戦略をより効果的、効率的にするために必要不可欠である。したがって、今回の客員研究に挙げられている自由課題に沿ったテーマでもあり、妥当性は非常に高いと思われる。

2. 研究の実施方法

研究の枠組み

基本的には、印刷物あるいはWEBで公開されているものから、各機関で出されている重要な文献や報告書を収集し、現在までのEFAの到達状況をレビューするアプローチをとる。しかし、特に最近のことや現在進行中の内容に関しては、容易に情報を得にくいいため、国内における訪問調査および海外（米国ワシントンDC、グアテマラ共和国、ラオス人民民主共和国）におけるインタビューおよび資料収集もおこなう。EFA: FTI (Fast Track Initiative) の事務局がおかれている世界銀行、米州開発銀行において現場と常に仕事をしている教育セクターのタスク・マネージャーのインタビューはこの研究に不可欠なものとする。また、現地（グアテマラ国とラオス国）で実際にEFAがどのように受け止められ、動いているのかをフィールドワークを含めて分析することは極めて重要である。

3. 研究期間

2004年7月15日～2005年3月31日

7月～8月、	資料収集およびインタビュー調査（国内外での調査をおこなう。）
9月、10月	資料整理、資料およびデータ分析を行なう傍ら執筆活動を始める
11月、1月	執筆活動
2月	校正作業
3月	成果品完成、提出

4. 研究報告書の構成とJICA/ODA事業にとっての活用の可能性

4.1. 目次案

1. はじめに
 - 1.1. 問題意識の提示
 - 1.2. 研究目的
 - 1.3. 本研究の独自性
 - 1.4. 研究方法
 - 1.5. 分析の構成

2. EFAの歴史的背景
 - 2.1. 国際社会におけるEFAの位置づけ
 - 2.2. 2000年EFAのアセスメントからダカール会議まで
 - 2.3. ミレニアム開発目標との関係
 - 2.4. EFA FTIへの発展

3. 日本のODAによるEFAの取り組み
 - 3.1. BEGIN以前の取り組み
 - 3.2. BEGIN以降の取り組み（大綱も含む）
 - 3.3. 日本のEFA支援における研究者・実務者の見解

4. 開発途上国に見るEFAと日本の教育援助
 - 4.1. アフリカの事例（モザンビーク）
 - 4.2. 中東、北アフリカの事例（イエメン）
 - 4.3. アジアの事例（ラオス）
 - 4.4. ラテンアメリカ（グアテマラ）

5. 日本のEFA推進への提言
 - 5.1. 算数・理科教育
 - 5.2. 現職教員研修・教員養成
 - 5.3. 学校建設
 - 5.4. 経常経費支援について
 - 5.5. 他機関との援助協調
 - 5.6. アフリカにおける援助体制の確立
 - 5.7. 日本の比較優位とは

参考資料

4.2. 活用可能性

本研究内容は、日本のODAに関心のある研究者や実務者が最も深く知りたい分野の一つであると理解しているので、成果品は、第一にJICAの内外事務所において、教育担当者あるいは専門家等が、相手国とともに教育関連のプログラムやプロジェクトを作成する際に、合意形成のために有用かつ、重要な資料となるであろう。第二に、国内外の教育開発や教育援助に関わる研究者や実務者にとっても、JICA/ODA事業にかかわる際に、基礎資料として活用できるであろう。また、後日英語に翻訳された際には、途上国政府の政策担当者や

国際機関の教育担当者、更には他の二国間援助機関でもさらに活用の範囲は広がるであろうと確信する。

5. 現地調査

5.1. 必要性

日本では得られない資料、情報を収集するために必要である。また、現地で直接教育政策（政府機関）、援助政策（ドナー機関）に携わっている人々にインタビューをして情報を得ることは本研究にとって不可欠である。

5.2. 対象国、調査対象地

米国（ワシントンDC）、グアテマラ共和国（グアテマラ市、ソロラ県）、ラオス国（ビエンチャン市）

5.3. 目的

現在、かなり多くの文書がインターネットで公開されているが、公開されているものには限度がある。書籍等も、日本でも購入可能なものも多いが、手にするのに時間がかかりかかることも多い。さらに、特に重要なことは、最新の報告書などは、公開されていないことも多く、直接訪問することによってのみ得られる。また、特に担当者へのインタビューは、日本においては、ほとんど不可能である。つまり、国際機関での資料収集、および教育担当者へのインタビューが米国ワシントンDCでの現地調査の目的である。また、本研究の事例国であるグアテマラ国とラオス国での現地調査は、実際に現地でEFAに携わっている国際機関、二国間援助機関、教育省の担当者から話を聞くことにより、いっそう本研究の目的である「日本に対してEFA推進への提言」の付加価値を高めることと考える。

5.4. 実施内容

米国ワシントンDCにおいては、世界銀行、米州開発銀行等の担当者へのインタビューおよび世銀図書館、世銀のイントラネットを中心とした資料収集活動。一方、グアテマラ国とラオス国では、教育省、ドナー、地元小学校を訪問し、インタビューおよび資料収集を行う。